

課題名	魚道にもバリアフリー		
所属	福岡県 福岡土木事務所 河川砂防課	発表者職氏名	技術主査 梅崎 直
河川名	多々良水系多々良川 一級(二級)準	工期	平成17年度 ~ 平成19年度
所在地	福岡県福岡市東区多々良1丁目地先	多々良川 3.5km付近	左岸・(右岸)
セグメント	2-1	河床勾配 1/625	魚道1/42 計画高水流量(確立年) 730 (暫定1/10)

キーワード・キーセン

- ・生物の生育場
- ・住民参加
- ・ふれあいの場の創出
- ・バリアフリー魚道
- ・上下流を締め切る精



【事例概要】

◆目的

- ・津屋堰水門の落水音対策。
- ・魚やエビ・カニなどの遡上や降下を容易にする。
- ・学童が、自然に親しみ、調査、学習をする場の創出。
- ・地元の憩いの場の創出。

◆実施内容

- ①ワークショップ・住民連携。
- ②魚道の目標設定。
- ③事後調査。

◆ポイント

- (1)呼び水
- (2)魚道内に水位調整のための堰板を数カ所設けた。これを利用して魚道を完全に締め切ることで、容易で精度の高い調査が可能となった。
- (3)魚道内に空隙を作り、魚巣をもうけた。
- (4)自然石を利用することで餌となる水苔の繁茂を促す。
- (5)子供たちの安全面に配慮し、流水部は全面階段とした。
- (6)魚道水路の上流と下流の勾配を工夫する。

発表者氏名	梅崎 直	所属	福岡県福岡土木事務所河川砂防課河川改修係
-------	------	----	----------------------

## ◆実施内容

施工前



施工後



## 実施フロー

## 現況把握

1. 多々良川に生息する魚類
2. 多々良川の流況



## 魚道機能の設定

1. 地元関係者の意見聴取



## 魚道の形式決定



## 詳細設計

1. 県内階段見学会



## 工事実施

1. 施工計画・施工状況



## 検証



## ①ワークショップ

- ・ワークショップのメンバー

多々良自治会、多々良川清流を守る会、トンボクラブ

- ・実施回数

設計前 5回、県内魚道及び階段視察 2回(優良事例1回、失敗事例1回)、施工段階 8回

階段視察状況



施工中説明会状況



施工前の落水状況



## ②魚道の目標設定

【基本理念: 全国でどこにもない魚道を作る。】

- (1) 落水音の低減
- (2) 流速が遅い場所を好む生物に配慮する。
- (3) 子供たちの学習の場。

(2) 魚類調査時には上下流を締め切り、ドライにして精度の高い魚類調査を行なう。

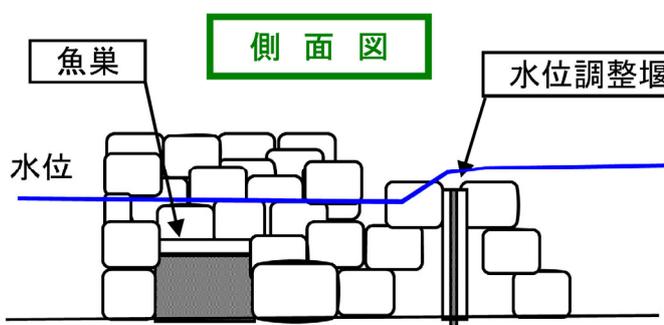
(上流側流入口)



(水位調整堰 第3堰)



(3) 魚道内に空隙を作り、魚巣をもうけた。



ウナギ、カニの生態に配慮し巨石間の間詰めをしない。



(水苔の付着状況とランダムな石積み)



(4) 自然石を利用することで餌となる水苔の繁茂を促す。

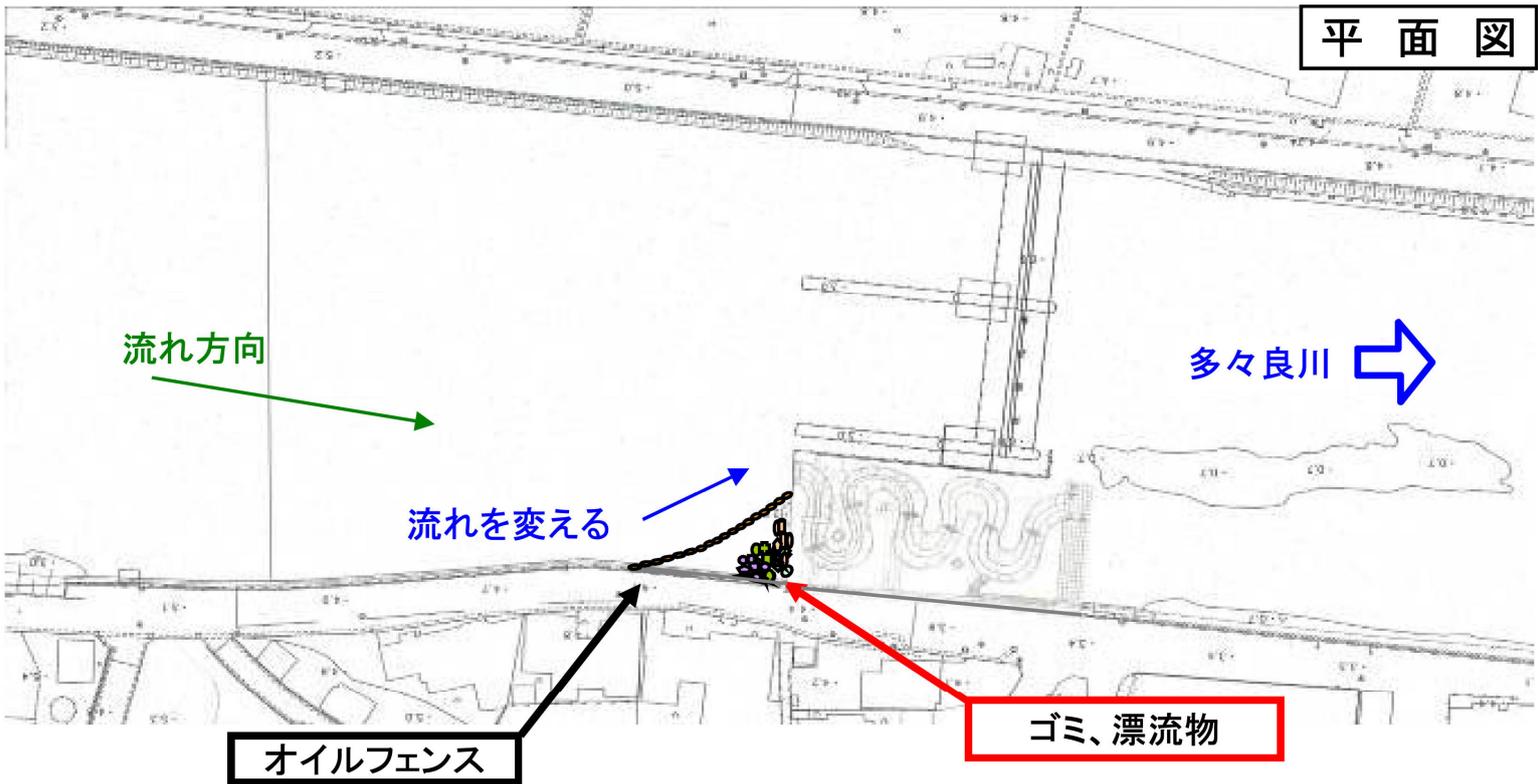
多種の魚に配慮し水際の流速に変化を付けるため石積みを凸凹になるようにした。

河川名 多々良川水系 多々良川 一級・**二級**・準用

## &lt;代表事例の評価すべき点&gt;

- (1) 魚道の設置により堰からの落水が少量となり落水音が低減された。
- (2) 魚道をバリアフリー化したことによりエビやカニに加えて鯉でも遡上出来るようになった。
- (3) 魚道の完成により、子供たちが遊びの中から、自分の手で魚を捕り学習する場の創出が出来た。これにより、「生物の保全」と「学習の場」の融合が図れた。
- (4) 維持管理を地元が行なうなど、地域との良好な関係が構築された。

## &lt;代表事例の改良すべき点&gt;



河川の形状から右岸の角地にゴミが漂着し、地元関係者は維持管理に苦慮している。容易な維持管理を行なうためにはオイルフェンス等を設置するなど改善を図る必要がある。

## &lt;代表事例に選んだ理由&gt;

「生物の保全」と「学習の場」の融合が図れ、維持管理を地元が行なうなど、地域との良好な関係が構築された事例である。また、形状も斬新的である。